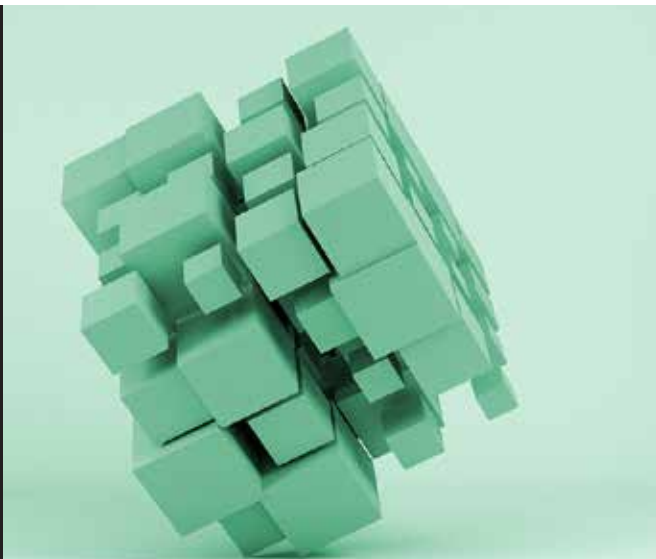


AT-A-GLANCE

ネットアップとGoogle Cloudでかなえる クラウド上での シンプルなVMwareの運用



Google Cloud VMware Engineは現在お使いのVMwareアプリケーションをそのままクラウドに移し、徐々に最適化していく場合（リフト アンド シフト）に便利なサービスです。クラウドに移行する際、コードもプロセスもチーム編成も一切変更せずに済むのが特長です。その際、NetApp® Cloud Volumes Service for Google Cloudは、お客様の仮想マシン（VM）にゲストOSとしてアクセスでき、コスト削減とパフォーマンスの向上に貢献します。

ここでは、ネットアップ テクノロジ、VMware、Google Cloudの組み合わせが、エンタープライズ ワークロードの運用に最適である6つの理由をご紹介します。

- 

VM間やアプリケーション間でのスムーズなファイル共有

Google Cloud VMware Engineで優れたデータ管理機能が広範囲に提供されるだけでなく、さらなる有効活用が可能になります。Cloud Volumes Serviceにより、Google Cloud VMware EngineとGoogle Cloud Engine上で運用されるVMやアプリケーションの間でファイル共有機能を使用できるようになります。また、SMBやNFS共有上でエンタープライズ アプリケーションを直接実行するのに十分なパフォーマンスも実現します。
- 

ダウンタイムを伴わない移行

VMware HCXを使用すると、システムを一切停止させることなく、オンプレミス環境とクラウド インスタンスの間でVMやアプリケーション データを移行できます。
- 

ホーム ディレクトリとVDIプロファイルを低コストに実現

通常、仮想デスクトップ インフラ（VDI）ソフトウェアでは、ファイル共有を使用して各VDIユーザのプロファイルを管理しています。Cloud Volumes Serviceのボリュームは、VDI環境で一般的に使用される数千ファイルのプロファイルを低コストでサポートし、SMBとNFSの両方のプロトコルを通じて運用できます。
- 

開発作業とテストのスピードアップ

Cloud Volumes Service for Google Cloudは、運用に一切影響を与えずに瞬時に作成できるNetApp Snapshot™コピーのほか、充実したデータ管理機能とスケジュール設定オプションを備えています。こうしたSnapshotコピーを活用すると、アプリケーションに大規模な変更を加える場合にチェックポイントとして使用できるほか、変更やテストを行うためにアプリケーションのクローンをすばやく作成できるので、元のボリューム データには手を触れる必要がありません。Snapshotコピーはバックアップと高速なリカバリにも使用できます。
- 

管理の簡易化

NetApp ONTAP®データ管理テクノロジーを活用することで、オンプレミスとGoogle Cloudで運用されるVMwareワークロードの管理がシンプルになります。オンプレミスとクラウド上では、まったく同じストレージ管理機能の使用が可能です。しかも、Google Cloudを通じて請求書を1件にまとめられるので、管理がさらに容易になります。
- 

運用開始までの時間を短縮

Cloud Volumes Service for Google Cloudは複数のプロトコルをサポートしています。そのため、データベースやその保護対策とともに、オンプレミスのアプリケーションを再構成することなくGoogle Cloud VMware Engineに「リフト アンド シフト」できます。

将来を見据えたプラットフォームの実現

ネットアップとVMwareのオンプレミス資産をGoogle Cloudに移行する方法は、[netapp.com/ja/google-cloud](https://www.netapp.com/ja/google-cloud)をご覧ください。